

(日立-7170S での第二試液は R 3 の設定になります。)

【測定結果の判定法】

参考基準範囲

0～74 $\mu\text{mol/L}$
(日本臨床, 増刊第4版, p. 603, 1995.)

【性能】

** 性能

1. 感度試験
①精製水を試料として操作した場合の1分間あたりの吸光度変化量は0.000～0.025です。
②50 $\mu\text{mol/L}$ 濃度の標準液を試料として操作する場合の1分間あたりの吸光度変化量は、ブランクを差し引くとき0.010～0.055の範囲内です。
2. 正確性試験
濃度既知の管理用血清（ヒトプール血清）を測定するとき、既知濃度の $\pm 10.0\%$ 以内です。
3. 同時再現性試験
同一検体を5回同時に測定するとき、測定値のCV値は5.0%以下です。
4. 測定範囲
本キットによる試料中の3-ヒドロキシ酪酸の測定範囲は3～150 $\mu\text{mol/L}$ です。また、標準法による測定の場合は8～1000 $\mu\text{mol/L}$ です。

相関性試験成績

同一の測定法を採用している市販品との相関性は
 $y = 1.044x + 1.0$ (Y: 本法), $r = 0.999$ でした。

較正用基準物質

社内基準品(ケトン標準液Ⅱを使用の場合)

【使用上又は取扱い上の注意】

取扱い上（危険防止）の注意

1. 試料（検体）はHIV, HBV, HCV等の感染の恐れがあるものとして取り扱ってください。検査にあたっては感染の危険を避けるため使い捨て手袋を着用し、また口によるピペティングを行わないでください。
2. 試液には直接触れないように注意してください。誤って目や口に入ったり、皮膚に触れた場合には、水で十分に洗い流す等の応急処置を行い、必要があれば医師の手当て等を受けてください。

使用上の注意

1. 試薬は指定された条件下で保管し、使用期限を過ぎたものは使用しないでください。
2. 誤って凍結させた試薬は使用しないでください。正しい結果が得られないことがあります。
3. 試薬の開封後はなるべく早く使用し、保存する場合は蓋を閉めて指定の条件で保存してください。
4. 測定範囲を超える検体については、精製水あるいは生理食塩水で希釈して再測定してください。得られた値に希釈倍数を乗じたものが測定値となります。
5. 製造（ロット）番号に関わらず、試薬の注ぎ足しは行わないでください。ロット変更後はキャリブレーションを実施して使用してください。
6. 検量用物質は別売品を使用してください。
7. レートアッセイですので、反応時の温度管理に留意してください。

廃棄上の注意

1. 検体と接触した試薬及びサンプルカップ等は感染の危険性があるものとして処理してください。

2. 試液中にはアジ化ナトリウムが添加されていますので、廃棄する際にはハロゲン化合物、重金属、酸との接触がないように注意してください。

【貯蔵方法、有効期間】

貯蔵方法

2～10℃で保存

有効期間

製造後2ヵ年（有効期限は瓶ラベルに記載）

***【包装単位】

製品コード	製品内容	包装形態
A349-00	補酵素試薬 (16ml 用×3) 補酵素試薬溶解液 (16ml×3) 酵素試薬 (8ml 用×3) 酵素試薬溶解液 (8ml×3)	16ml 用セット
A349-30	補酵素試薬 (30ml 用×2) 補酵素試薬溶解液 (30ml×2)	30ml 用×2 (R-I)
A349-15	補酵素試薬 (60ml 用×2) 補酵素試薬溶解液 (60ml×2)	60ml 用×2 (R-I)
A349-40	酵素試薬 (15ml 用×2) 酵素試薬溶解液 (15ml×2)	15ml 用×2 (R-II)
A349-65	酵素試薬 (8ml 用×6) 酵素試薬溶解液 (8ml×6)	8ml 用×6 (R-II)
A349-25	酵素試薬 (30ml 用×2) 酵素試薬溶解液 (30ml×2)	30ml 用×2 (R-II)

注：他の包装につきましては弊社までお問い合わせください。

【主要文献】

1. 日高 他, 広範囲血液・尿化学検査・免疫学的検査（上巻）, 第4版, 日本臨床, p. 603, 1995.
2. 金井 他, 臨床検査法提要, 改訂34版, 金原出版, p. 499, 2015.

***【問い合わせ先】

株式会社セロテック 企画開発室
〒062-0021 札幌市豊平区月寒西1条8丁目8番7号
フリーダイヤル：0120-123-489

製造販売元



株式会社 セロテック

北海道千歳市泉沢1007-67